

てこな・ミュージック・ジャーナル

11月15日(土) 東京交響楽団演奏会 シンフォニーと
オペラを一度に楽しむよびコンサート

新国立劇場音楽監督 若杉弘さんが市川で東響を振る！

新国立劇場の音楽監督として大活躍の若杉さんならではの演奏会が、11月15日(土)市川で実現します。若杉弘さんは、小澤征治さんに並ぶ、日本を代表する指揮者で、新国立劇場の音楽監督に就任後、意欲的なオペラ上演で、前よりも一層、その音楽観が世界的な注目を集めています。

鋭い眼光

その若杉さんに、この演奏会構想のためにお会いしたのは、もう一年以上も前のことです。上野の芸大での講義の後にお時間を作っていただきました。お会いしたときにすでに、市川での演奏会の構想ができあがっていたことに、非常に驚かされました。オペラ「ホフマン」とオペレッタ「こうもり」のアリア抜粋とモーツァルトのシンフォニー。合唱は市民の方たちを集めましょうと。そうしたいのはやまやまですが、でも。。と私が異論を唱えたと、どうして反対なの？と、鋭い目でこちらをご覧になりました。3ヶ月後(2009年2月)に市民合唱団演奏会がすでに決まっていますので、と小さくなりそうな声で、事情を説明すると、「じゃあ仕方ない、でもソリストはできるだけいい人にしましょうね。私は「もちろん」とお答えしながら、予算ありきの、財団事情をどのようにお話したらいいのだろうと、脈が速くなりそうでした。それを察してくださったのか、「僕の希望は言いましたから、後はそちらで調整してください」と。

その後は、音楽での理想を実現するには、まずは体力から、だから腰痛からの復帰に逆流するプールを歩いて筋肉を鍛えられていることなど、なるほどと思うお話をうかがって、あっという間の一時間半ほどでした。

憧れの若杉弘さん

今年73歳になられる若杉さんは、これまでマーラーの交響曲を連続演奏、びわ湖ホール芸術監督として、日本の音楽界を率いる存在として、常に脚光をあびてきました。

「マーラー旋風」は今でも思い出されてなりません。ちょうど20年前、19世紀末の作曲家マーラーの厭世的な生涯とその作品が醸し出す「死の影」、「繁栄と破滅」といったイメージと20世紀末を前にした時代が重ねられて、世はまさに「マーラー・ブーム」となったのです。

その中で、もっとも注目された指揮者のお一人が若杉弘さん

市川市文化振興財団 音楽総合プロデューサー 小坂 裕子

でした。サントリー・ホール、上野の文化会館、と若杉マーラーに憧れて、チケットを取るのに必死だったことが懐かしく思い出されます。

指揮者として常に第一線で活躍される若杉さんは現在、新国立歌劇場音楽監督として「軍人」「黒船」など初演も含めて、非常に意欲的なオペラ指揮者として、いつも話題と聴衆を集め続けています。

市川のために若杉さんが選んだ曲目と豪華な出演者たち <前半>モーツァルト・シンフォニーk.201と「ホフマン物語」より

オーケストラは川崎ミュゼを本拠地にいつも意欲的なコンサートを繰り広げている東京交響楽団。そして出演する歌手たちは、日本のオペラ界を代表する天羽明恵さんと森山京子さん。若手の中でもっとも注目されている大隅智佳子さんと那城敬さん。次代を担う土崎譲さんといずれも、指揮者若杉さんのお墨付きの方々ばかりです。

まずオーケストラがモーツァルトの交響曲第29番イ長調を演奏します。

そしていよいよオッフェンバックの「ホフマン物語」、主人公ホフマンのうらぶれた現実と回想というオムニバス形式のドラマは、東響コーラスによる「酒場の合唱」から始まります。東響コーラスは東京交響楽団専属合唱団で、今回は80人の方々がオーケストラの後ろに並びます。2曲目がホフマンのアリア「クラインザックの歌」。3曲目はオランダのアリアと合唱「森の小鳥は憧れを歌う」です。オランダ役は天羽明恵さん。オランダは奇妙な2人の男が作り出した等身大の人形。オランダを美しい女性だと信じこんで、一人恋に陥るホフマン。ゼンマイを巻かれては歌いだし、切れると動きが止まり、またゼンマイを巻かれて歌いだす、一度見て聞くと決して忘れられないほど、印象的な場面です。

<後半>モーツァルト・シンフォニーk.318と「こうもり」

明るい軽快なト長調のシンフォニーがあたかもオペラの序曲のようで、後半の幕開けです。喜劇「こうもり」はヨハン・シュトラウス 世の傑作。時は19世紀末の大晦日。妻と夫が互いの浮気を疑い、でも最後は「全てはシャンパンのいたずら！」とみんなで大合唱となってめでたし、めでたし。

開幕の合唱、美しい召使アデーレのアリア、妻ロザリンデのチャルダッシュ、夫アイゼンシュタインと友人ファルケの二重唱。アイゼンシュタイン、アデーレ、ロザリンデの三重唱、舞踏会的主催者オルロフスキーのアリア、そしてシャンパンの合唱。

20世紀から21世紀、日本の音楽界にその名を輝かせている若杉弘さん構想の市川オリジナルコンサート。芸術の秋に相応しい東京交響楽団演奏会に、ぜひいらっしやいませんか？

過去のとこな・ミュージック・ジャーナルはHP「てこななど つとねつと」<http://www.tekona.net/> でご覧になれます。